



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト



国土交通省 三重河川国道事務所・三重県・伊勢市

令和元年9月3日

SNS・AI 技術を活用した住民避難・水防活動支援プロジェクトを始動 ～三重県伊勢市をフィールドとした現場実証訓練を実施～

近年の度重なる大規模な豪雨災害の発生を踏まえ、伊勢湾台風から60年を機に三重県伊勢市をフィールドとして、防災情報を発信する行政（国土交通省、三重県、伊勢市）とSNS・AI技術を有する企業、研究機関等の12機関が連携し、住民避難・水防活動支援プロジェクトを始動します。

このプロジェクトでは、高齢者等の避難支援や水防団の円滑な活動支援などを目的として、SNS(LINE)及び防災チャットボット「SOCDA」(ソクダ)※を活用した河川情報等の提供や被害情報の共有、AI音声応答機能(AIアシスタント「Clova」(クローバ))を活用した防災情報等の入手と安否確認などに全国で初めて取り組むもので、9月5日(木)に三重県伊勢市で現場実証訓練を実施します。

※SOCDAはNIED、NICT、WNIが、LINEの協力を得て、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期にて研究開発を実施しています。

【1. 現場実証訓練】

日時: 令和元年9月5日(木) 10:00~12:00(訓練)、16:00~16:30(報告会)

場所: 三重県庁、伊勢市防災センター、三重河川国道事務所、他【別添1参照】

概要: 【別添2参照】

【2. 訓練参加団体】(12機関)

三重県、伊勢市、LINE株式会社、AI防災協議会、
国土交通省水管理・国土保全局、中部地方整備局、三重河川国道事務所
一般財団法人河川情報センター(FRICS)、
国立研究開発法人防災科学技術研究所(NIED)、
国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)、
株式会社ウェザーニューズ(WNI)、ボイスアップラボ株式会社、

【3. 配付先】

中部地方整備局記者クラブ、三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ、伊勢市政記者クラブ

※当日、取材を希望される報道機関におかれましては、9月4日(水)17:00までに、【別添3
取材登録書】をFAXにて提出をお願いいたします。

【問い合わせ先】

<伊勢市内での実証訓練に関する事>伊勢市役所 都市整備部

次長 宮本 晃(みやもとあきら)

TEL 0596-21-5580

<津市内での実証訓練に関する事>三重県庁 防災対策部 災害対策課

課長 内山 敦史(うちやまあつし)

主事 南 琢也(みなみたくや)

TEL 059-224-2189

<プロジェクト全般>国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 調査課

課長 岡本 祐司(おかもとゆうじ)

TEL 059-229-2211

別添1:現場実証訓練会場位置図

【現場実証訓練会場:伊勢市内】



【訓練会場①】

伊勢市防災センター4F(伊勢市消防本部)
伊勢市楠部町 159 番地 1 (倉田山公園内)

TEL: 0596-25-5719

時間: 10:00~12:00

(実証訓練開会式) 時間: 10:00~10:10

内容: 実証訓練開会式 他



【訓練会場②】

伊勢市生涯学習センター2F(いせトピア)
伊勢市黒瀬町 262 番地 12

TEL: 0596-21-0900

時間: 10:45~11:15

内容: AI アシスタント Clova(クローバ)を
活用した高齢者等の避難支援



【訓練会場③】

宮川右岸 4.2k 堤防天端
(国道 23 号線宮川大橋上流側)

伊勢市御薊町高向

時間: 11:45~12:00

内容: LINE 等を活用した水防団、
河川巡視員への河川情報の提供、
現地状況の共有

【実証訓練会場 津市内】



【訓練会場④】

三重県庁（津市広明町 13 番地 TEL: 059-224-3070）

時間: 10:00～12:00 【訓練会場: 三重県庁 災害対策室 5F】

内容: LINE 版防災チャットボット「SOCDA」を活用した防災情報の提供

LINE 等を活用した住民からの被害情報の収集・共有 他

（訓練報告会）

時間: 16:00～16:30 【会場 三重県庁 プレゼンテーションルーム 3F】

【訓練会場⑤】

国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所（津市広明町 297 番地）

時間: 10:00～12:00

内容: LINE 等を活用した河川管理者(河川巡視員)、水防団からの現地情報の収集 他

※訓練会場①～④の記載時間: 取材可能時間

・取材場所までの移動は各自でお願いいたします。

・取材当日の連絡・問い合わせ先: 三重河川国道事務所 岡本 090-1980-1730

SNS・AI 技術を活用した住民避難・水防活動支援プロジェクト ～三重県伊勢市をフィールドとした現場実証～

【目的】

国土交通省では、平成 30 年 7 月豪雨を踏まえ、住民自らの避難行動に結びつく情報の提供・共有方法を充実することを目的に「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」を推進している。

このプロジェクトの一環として、今回、三重県伊勢市をフィールドとして、情報を発信する行政（国、三重県、伊勢市）と SNS、AI 技術を有する企業、研究機関等が連携し、河川情報等の提供の充実に図り、住民の自らの避難行動や円滑な水防活動を支援することを目的とした現場実証を実施する。

【実施内容】

昭和 34 年の伊勢湾台風から 60 年の節目を迎えるのを機に三重県伊勢市をフィールドとして、河川氾濫を想定した現場実証訓練を実施する。また、訓練後も今回の取り組みを継続し、実際の台風等において現場実証を行い、SNS・AI 技術を活用した住民避難・水防活動支援方策をとりまとめる。

【実施項目】

(1) 高齢者等の避難支援（LINE を活用した逃げなきゃコール）

① LINE 版防災チャットボット「SOCDA」を活用した防災情報の提供

河川情報、避難情報等の警戒情報を LINE 版防災チャットボット「SOCDA」※を通じて住民等に発信。その情報を家族の一員もしくは、全員がキャッチ。

② LINE 等を活用した家族の避難呼びかけ

LINE 版防災チャットボット「SOCDA」から通知された警戒情報を家族グループトークで共有し、離れた家族に避難を呼びかけ。また、スマートフォンの操作が苦手な高齢者等に対しては、電話による避難の呼びかけを行う。

③ AI アシスタント Clova（クローバ）を活用した高齢者等の避難支援

スマートフォンの操作が苦手な高齢者等に対しては、家族からの LINE の情報や避難の呼びかけを AI アシスタント Clova（クローバ）による音声情報により支援する。

また、高齢者等が自ら避難行動するための防災情報や避難に関する情報を AI アシスタント Clova を活用して入手する。

④ LINE 等を活用した被害情報の収集・共有

住民から LINE 版防災チャットボット「SOCDA」を通じて被害情報を収集し、分類して地図にマッピング。その情報を WEB 上で行政や住民が共有。

(2) 円滑な水防活動支援

① LINE 等を活用した水防団等への河川情報の提供

河川管理者（三重河川国道、三重県）や伊勢市からの河川情報等を LINE 版防災チャットボット「SOCDA」等を通じて水防団や河川巡視員のスマートフォンに直接提供。

② LINE 等を活用した河川管理者（河川巡視員）、水防団からの現地情報の収集

水防団、河川巡視員からの現地情報を LINE 版防災チャットボット「SOCDA」で収集。収集した情報は地図にマッピングされ、伊勢市、河川管理者（三重河川国道、三重県）とリアルタイムに共有。

※ LINE 版防災チャットボット『SOCDA』

SOCDA (SOCial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management; 対話型災害情報流通基盤) による自動対話システム (防災チャットボット) が動作する実証実験用 LINE 公式アカウント。

SOCDA は国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援することを目的に研究開発中であり、NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第 2 期「国家レジリエンス (防災・減災) の強化」のテーマ I 「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者: NIED 臼田裕一郎) のサブテーマ 1-3 「対話型災害情報流通基盤の研究開発」にて研究開発を実施しています。

【実証訓練】

日時：令和元年9月5日（木） 10:00～16:30

場所：三重県庁、伊勢市防災センター、三重河川国道事務所 他

【訓練参加者】

伊勢市在住の三重県、伊勢市職員及びその家族 約120名

伊勢市水防団 約10名

【訓練参加団体】

- ・ 三重県
- ・ 伊勢市
- ・ LINE 株式会社
- ・ AI 防災協議会
- ・ 国土交通省 水管理・国土保全局、中部地方整備局、三重河川国道事務所
- ・ 一般財団法人河川情報センター（FRICS）
- ・ 国立研究開発法人防災科学技術研究所（NIED）
- ・ 国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）
- ・ 株式会社ウェザーニューズ
- ・ ボイスアップラボ株式会社

【訓練想定】

伊勢湾台風相当の大型台風により一級河川宮川、勢田川が氾濫危険水位を超過し、宮川右岸 4.2k 付近で被災（堤防法面崩落）の可能性があるとの条件下で、SNS・AI 技術を活用した高齢者等の避難支援、水防活動支援等の訓練を行う。

【訓練スケジュール】

10:00: 実証訓練開会 【伊勢市防災センター 4F】

・伊勢市長挨拶

10:10: 実証訓練開始 (伊勢市防災センター、三重県庁、三重河川国道事務所 他)

(高齢者等の避難支援)

10:10～12:00: LINE 版防災チャットボット「SOCDA」を活用した

防災情報の提供 (避難準備情報、避難勧告等)

10:10～11:30: LINE 等を活用した家族の避難呼びかけ

(家族グループトーク)

10:45～11:15: AI アシスタント Clova (クローバ) を活用した

高齢者等の避難支援

(伊勢市生涯学習センター)

11:00～11:45: LINE 等を活用した被害情報の収集・共有

(円滑な水防活動支援)

10:10～12:00: LINE 等を活用した水防団、河川巡視員への

河川情報の提供、現地状況の共有

(宮川右岸 4.2k 伊勢市御薊高向地先)

12:00: 現場実証訓練終了

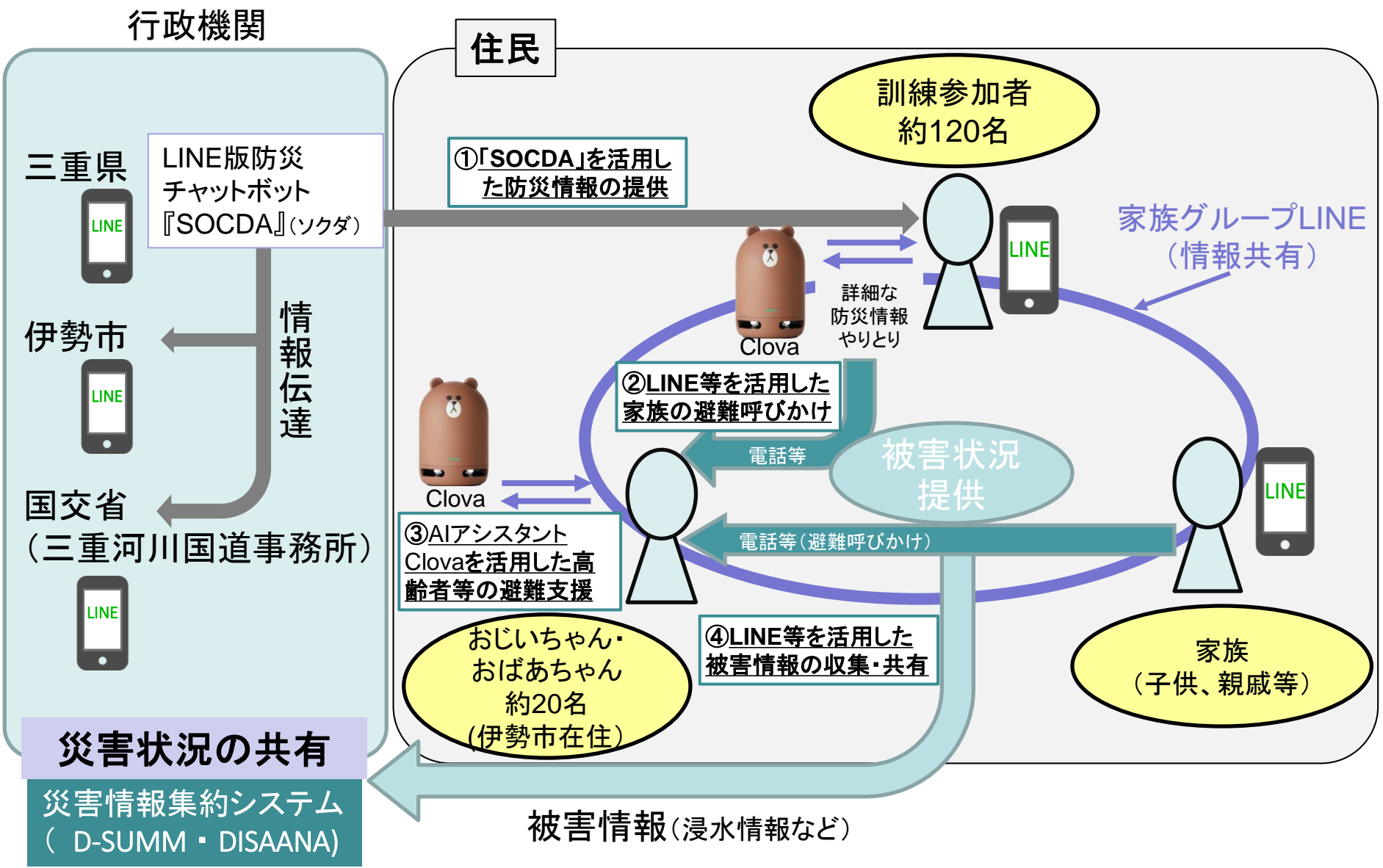
(訓練報告会)

16:00: 訓練報告会 【三重県庁 プレゼンテーションルーム 3F】

・各機関からの訓練結果報告

・三重県知事、伊勢市長 他 訓練講評

高齢者等の避難支援(LINEを活用した逃げなきゃコール) 国土交通省



円滑な水防活動支援

水防団(本部)
(伊勢市)



河川管理者

国交省
(三重河川国道事務所)



三重県



被災・活動状況の
共有

災害情報集約システム
(D-SUMM ・ DISAANA)

【配信画面イメージ】

伊勢市水防団へ
●●観測所

9/● 11:00 水位が6.XXm(氾濫開始水位-2m)
に達しました。

水位断面
(宮川右岸6.22km観測所)

水位計サイト: [https...](https://...) (URL)

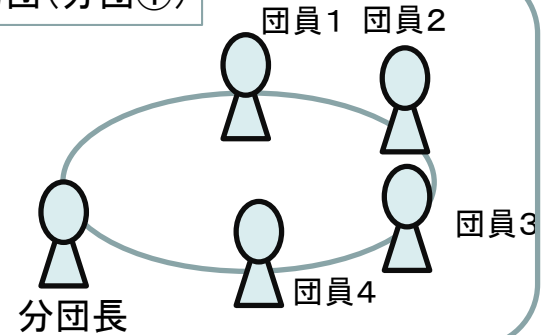


CCTV画像

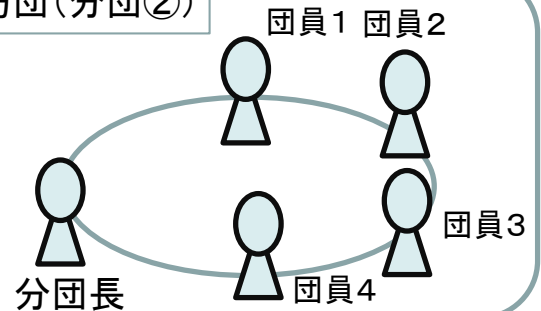
①LINE等を活用した水防団等
への河川情報の提供

②LINE等を活用した河川管理
者(河川巡視員)、水防団から
の現地情報の収集

水防団(分団①)



水防団(分団②)



河川巡視員(三重河川国道)



※対象河川: 宮川・勢田川

河川巡視員(三重県)



※対象河川: 椋尻川

別添3：「取材登録書」

令和元年9月3日
三重河川国道事務所

SNS・AI技術を活用した住民避難・水防活動支援プロジェクト
取材登録書

標記の取材をご希望される報道機関におかれましては、事前にご登録をお願い致します。

FAX 送信期限：9月4日（水） 17時00分 まで

1. 報道機関名 _____

2. 取材者等

(1) ご氏名 _____

(2) 連絡先 TEL _____

(3) 取材人数 _____ 人

3. 取材先

伊勢市（会場①、②、③） 津市（会場④）

※取材先を○で囲んでください

4. 送信先 (FAX) 059 - 229 - 2257

5. 問い合わせ先

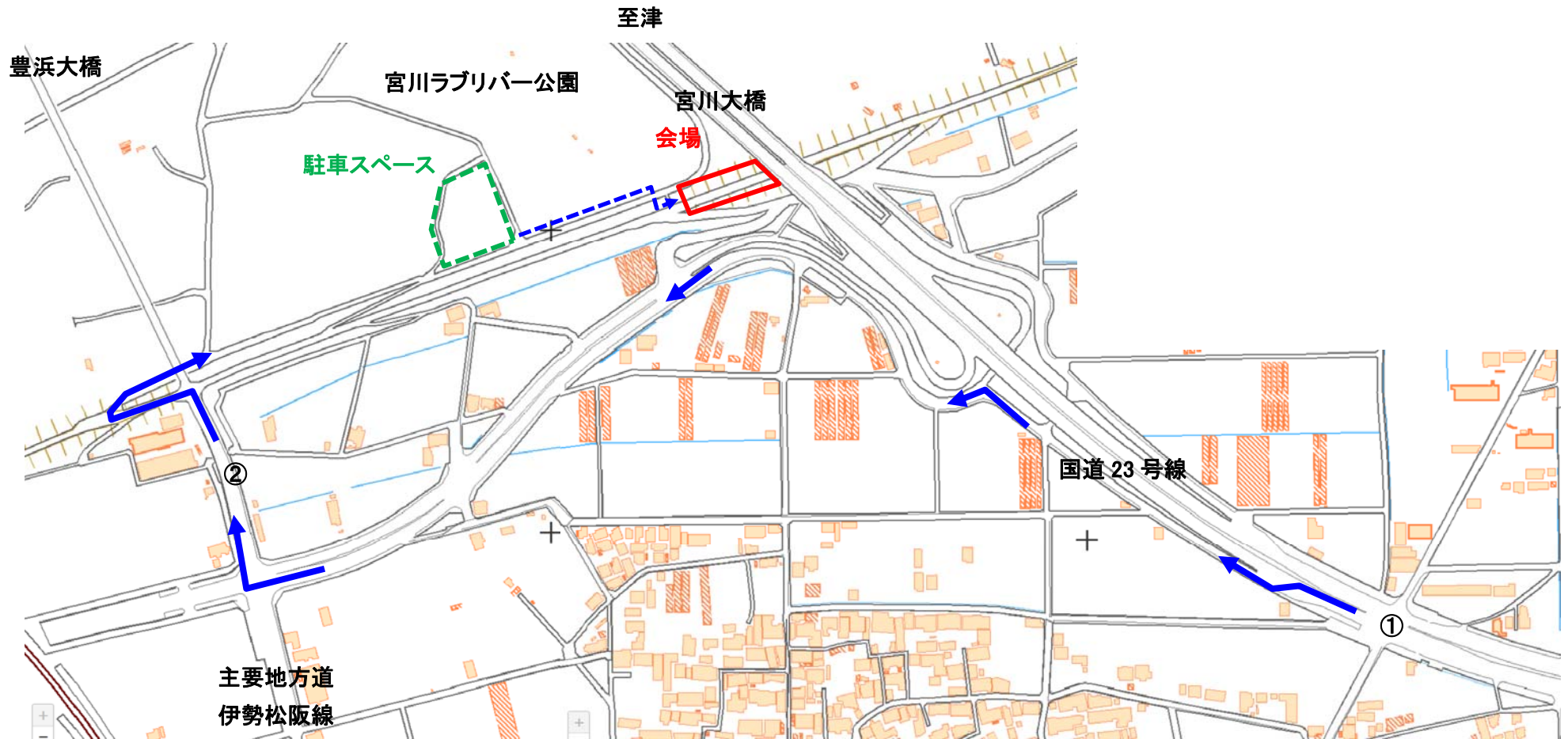
国土交通省 三重河川国道事務所

調査課長

岡本 祐司（おかもと ゆうじ）

代表：TEL：059-229-2211 直通：059-229-2216

(参考) 【訓練会場③】 宮川右岸 4.2k 堤防天端 会場ルート図



① 国道 23 号線を津方面：高向交差点通過後側道に進入。

② 主要地方道伊勢松阪線：豊浜大橋手前を左折し、宮川の坂路に進入。(駐車スペースからは徒歩1分で会場)